

笑顔大好き

発行者：常井洋治
〒319-0205 笠間市押辺1745
TEL.0299-45-6818
FAX.0299-45-0818

県立中央病院

- 女性専門外来を開設
- PET(PET/CT)を更新導入

保健福祉委員会での質疑の様子。何としても、県立中央病院の産科の早期再開を実現したいと思っています。医療と福祉の充実を、私のライフワークとして取り組んでおります。(24年9月)



一もっと県民の期待に応える県立中央病院へ

●女性専門外来を開設—産科の早期再開へ

更年期障害等の女性特有の病気等を経験豊かな医師が総合的に診察する女性専門外来を開設しました。

(1)対象

- ・更年期障害など女性特有の身体症状やストレスなどにより心身の変調を来している方
- ・体が不調だが何科を受診してよいか分からない方



(2)実施日及び時間等

平成24年10月から
毎月第2・4木曜日 14:00~15:30 (1名30分×3名)
※完全予約制。受診後は疾患に応じ、院内他診療科や周辺の医療機関に紹介します。

(3)対応医師 宮澤 豊 医師(病院局顧問 Vol.53で紹介)

(4)問い合わせ先 (予約受付)

県立中央病院 医療連携室/医療相談室
☎0296-77-1121 (代表)

(来年3月までは、既に予約がいっぱいです。)

※この開設は、実績を積んで産科の再開につなげようとするものです。私も、引き続きがんばります。

●新しいPETを導入—JCO基金を活用

(1)予算額 254,164千円 (9月補正予算)

(2)現況、経緯

○中央病院は、県のがん診療連携拠点病院として、PET/CT(ペット)を6年前(17年)に導入し、がんの早期発見や転移・再発の診断などに役立つ高度ながん画像診断を行っています。老朽化により検

査に支障をきたしています。(現在のPETは、皆様のご支援を受け私が粘り強く導入を主張したのですが、大いに役立ってきたことをご報告します。)

(3)新PET導入による想定効果

- 撮影時間の短縮により、患者負担の軽減、検査待ち期間の短縮
- 撮影画像の高精細・高解像度化による診断精度の向上

●PET/CT 検査実績

年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
件 数(件)	1,858	2,285	2,367	2,393	2,570	2,894
うち他院依頼	482	835	908	1,041	1,084	1,153
1日平均(人)	7.7	9.5	9.9	10.1	10.9	11.9

●救急患者受入状況—「7割強が軽度(一次)患者」が課題

期 間	平成22年度	平成23年度
救急患者受入数(人)	13,011	13,531
対前年度	+ 220	+ 520
うち救急搬送件数(件)	4,162	4,288
対前年度	+ 826	+ 126

●23年度決算(収益的収支)—2年連続で黒字を達成

(単位：百万円)

	平成22年度	平成23年度
(1)資金収支	625	411
(2)収益的収支 (※特別要因除く)	210 (210)	83 (289)

※東日本大震災に伴う修繕費等

一緒に創ろう! ふるさと

平成24年第3回定例県議会を終えて

笠間市・茨城県

の輝く新時代

平成24年第3回定例県議会は、9月7日から28日までの22日間開かれました。24年度補正予算及び条例など39議案を議決しました。以下、予算の概要をお知らせいたします。

東日本大震災関連補正予算約60億円 平成22年度から累計約3,200億円を投入

はないと考えられております。)なお、この防護対策の効果は限定的(他の放射性物質への効果なし)であるため、屋内待避、避難等の対策を補完するものといわれています。

平成24年度9月県一般会計補正予算を可決

- ◎補正予算 122億99百万円
(特別会計、企業会計含めて130億97百万円)
- ◎補正後 1兆5,097億48百万円

補正予算の主な事業 (百万円)

1 東日本大震災関連

(1)原発事故への対応

- 新 県立学校・県管理道路等除染事業 505
放射性物質汚染対処特措法に基づく除染実施計画に位置づけられた県有施設の除染等
・対象施設：市町村の除染実施計画に位置づけられ、除染等が必要な県管理施設(県立学校、県営公園、県営住宅、出先機関庁舎、県管理道路等)
・財源措置：国10/10(放射線量低減対策特別緊急事業費)

- 拡 防災活動資機材整備等事業 199
新たに設定されたUPZ圏内の市町村へ緊急時連絡網の整備や防災・医療活動のための資機材を整備

- ・対象市町：5市町(笠間市、高萩市、常陸大宮市、城里町、太子町)
- ・内容：TV会議システム、IP電話、防災活動資機材、医療活動用資機材、安定ヨウ素剤等の整備

※UPZ：緊急時防護措置準備区域(日本原電東海第二発電所から概ね30km圏内を想定)(Urgent Protective action Planning Zone)

※EPZ：緊急時計画区域(東海第二原発から概ね10km圏内(水戸市など9市町村))(Emergency Planning Zone)

笠間市民へ安定ヨウ素剤を配備

笠間市は東側の地域(大字単位で40歳未満者約14,500名)が東海第二原発から30km以内のUPZ圏内に該当しますので、安定ヨウ素剤を確保します。

※安定ヨウ素剤：原子力災害時に服用することによって、放射性ヨウ素による将来の甲状腺がんの発症を防ぐための医薬品です。(40歳以上の方は甲状腺がんのリスクが低いことから、服用する必要

(2)復興キャンペーン等

- 新 いばらき旅行需要創出事業 66
国内の観光客回復のための旅行代理店に対する新規モニターツアーの造成支援
・新規モニターツアーの募集及びツアー造成への支援(造成業者の旅行代金の8割相当)など

(3)災害復旧事業等

- ・中小企業等グループ施設等災害復旧事業 320
被災した中小企業等グループの災害復旧工事への支援
・補助対象：復興事業計画の認定を受けた中小企業等で構成されるグループが行う施設、設備の復旧(これまで笠間市内では2グループ採択)
・補助率：国1/2、県1/4(事業主体1/4)

2 その他

- 新 いじめ問題緊急対応事業 10
いじめの早期発見・解消のための「いじめ解消サポートセンター」(TEL 029-221-5550)の設置等
- ①「いじめ解消サポートセンター」設置によるいじめの早期発見・情報共有
・「いじめなくそう!ネット目安箱」をHP上に開設し、情報提供を呼びかけ
・いじめの相談対応や学校との情報共有を行う相談員を同センターに配置
- ②「いじめ解消サポーター」(警察OB、臨床心理士等)の派遣
・専門知識を活かした児童生徒・保護者への支援、教員への助言等
- ③教員向け研修会の開催
・公立小中学校全校の教務主任を対象に講演・事例発表等の研修会を開催

新 録音・録画装置整備事業 31

- 取調べの可視化に向けた取調べ状況を記録する録音・録画装置の整備
- ・整備内容：可搬型録音録画装置
- ・整備数：24式(全警察署へ配置)



▲私も「笠間の栗」の生産者として、栗拾いに精を出す。(24年10月)

次回県議選 笠間市は定数2のまま

県議会改革等調査検討会議 議員定数、選挙区を決定

常井洋治が座長代理を務め、平成23年3月から議論を重ねてきました。9月28日に議長に最終答申を行い、その役目を終えました。私は、今後も引き続き議会改革を推進してまいります。

○議員定数2人減（65→63）次回県議選（H26.12月）から施行

○報酬月額10万円削減（85万円→75万円）－（現在76万5千円にカット中）

年間総額1億93万5千円の経費節減（節減額は、議員5人減と同額）、実施時期は平成25年1月を予定

○選挙区ごとの定数見直し（1増3減）

①水戸市選挙区（現定数7→6）、②筑西市選挙区（3→2）、③東茨城郡南部選挙区（茨城町単独）（2→1）、④鉾田市選挙区（大洗町を強制合区）（1→2）



▲海野座長から磯崎議長に答申(24年9月)

宍戸橋の安全性確保を(水戸土木事務所から聴取)

1. 耐震補強計画上の位置づけについて

○宍戸橋（いこいの家「はなさか」の下）は耐震補強の対象となる緊急輸送道路のネットワークに該当しないため、耐震補強計画の対象外となっています。

2. 橋梁長寿命化修繕計画上の取り扱いについて

○同計画では「他事業(河川改修計画・道路改良計画等)で更新が予定されている橋梁については、架替までの安全性を確保するとの考えに基づき、対症療法的な管理を行っていくものとする。」とされています。

○宍戸橋は濁沼川の改修計画及び大洗友部線、355号旧道の改良計画（測量済）により架替が位置づけられているため、日常の安全パトロール及び5年に1回の定期点検等により橋梁の安全性を確保し、損傷が発見された場合は補修を行ってまいります。

3. 東日本大震災に伴う緊急点検結果について

○震災後に行われた緊急点検（H23.5月）においてもA判定（損傷は認められない、又は軽微である）でした。

【参考】宍戸橋の諸元について

竣工年月 昭和4年8月（83年経過）

橋長 75m（3径間）

幅員 全幅6.18m（車道5.5m+地覆0.34×2）

※私は、一日も早い架替えに向けて努力してまいります。また、他の橋梁の安全性を求めてまいります。

こころの医療センター土井院長 「茨城県は医師が少ないから健康寿命が長い」



今年6月公表の我が国初健康寿命では、茨城県は全国4位でした。人口10万人当たりの医師数（以下「医師数」という。）が全国46位（ビリから2番）であるにもかかわらず、健闘している状況です。土井院長は、本県以外にも医師数が少ない県が健闘していることから、医師数との相関関係を調査したところ、医師数が多い都道府県ほど健康寿命が短いという衝撃的な結果を得たと、保健福祉委員会で披露しました。そして皮肉にも「茨城県の健康寿命が長いのは、むしろ医師が少なく医療にかかる費用も少ないからと考えられる」と述べて

した。救急医療や難病治療などの専門的医療を除く現在の医療は、本当に国民の健康保持に役立っているのか、医療の第一の目的は健康寿命を延ばすことにあるはずなのに現状がそうでないのは何か重大なことを見落としているのではないかと、との問題提起をしました。医科大学の誘致など医師不足対策を県政の最大課題として取り組んできた私にも興味深い内容でした。

『健康寿命』：寝たきり状態や要介護状態を除く、いわば自立した生活を維持できる寿命。本県は73.0歳（男性71.3歳、女性73.6歳）、全国平均は男性70.4歳、女性が73.7歳（平均寿命は男性が78.8歳、女性が85.8歳）。

保健福祉委員会(病院局) (要約)

(H24.9.20)

- 中央病院のPET/CT（ペット）は、どう役に立ったのか
- 筑波海軍航空隊があった証であるこころの医療センターの旧病院管理棟を保存すべきだ

常井委員 がんの早期発見のためのPET/CTを導入するには相当長い間議論をしてきた。今まで約1万5千件使われてきたが、その効果についての分析や評価を聞きたい。

永井中央病院長 がんの判別等、様々な有用性がある。PET/CTは診断機器の一部でしかないが、医師が五感を働かせる診療能力を補助する機器であり、そういった機器が多ければ診断能力は高まる。PET/CTを使い、CTと組み合わせることで診ることによってきちんとした局在診断など、細かな診断ができています。

常井委員 新しい機器を導入することによって、待機状況はどのように解消されるのか。料金はどうなるのか。

田村経営管理課長 待ち時間が3週間から2週間になる見込みである。料金体系は現行と同じである。〈保険診療の場合は8万6,250円（※本人負担は2万5,875円）、人間ドックのオプションの場合には10万5,000円〉

常井委員 こころの医療センターの中にある筑波海軍航空隊の本部棟であった旧病院管理棟について、先日の慰霊祭

でも残してほしいという声があった。今後どうする予定なのか、耐震診断等を行う見込みがあるのか。

田村経営管理課長 耐震診断については、古い建物で図面がなく、予備調査をやらないと診断ができるかどうかはわからない。人が常時入っている施設でなければ耐震診断は必要ないので、お金のかからない方向で検討していく。

常井委員 この間ここで、映画「永遠の0（ゼロ）」の撮影が行われた。フィルムコミッションという形でもよい、旧本部棟を残して周囲に芝生を植えるなどして、そこに筑波海軍航空隊があったということを残していただきたい。

土井こころの医療センター病院長 自分の家族や友人が国のために命をささげるといふ自己犠牲があって、今の日本の繁栄がある。そのことを忘れて、今の繁栄だけを享受しているのならば、そのような国は滅びてしまう。そうならないためには、筑波海軍航空隊があったという資料館として残すべきだと私は個人的に思う。その予算を、病院局、あるいは医療の収入でやるべきかどうかは十分考えていただきたい。今、児童・思春期デイケア棟にある資料室は狭いため、将来的には管理棟に移していくべきと思う。筑波海軍航空隊がここに立地していたということは、こころの医療センターの誇りでもあり、残していただくことは大いにすばらしく、（当院の）医療と結びつくと思ふ。

保健福祉委員会(保健福祉部)(要約) (H24.9.20)

●みんなで一緒に考える動物愛護、条例改正を

常井委員 本県は犬の殺処分数が6年連続全国1位となっている。人の虐待やいじめなどが問題になっているが、命の大切さを示していくべきだ。本県の動物愛護条例は管理の分野に特化しており、もっと愛護の分野を厚くする必要がある。私も議員提案条例を考えながら勉強中である。動物の愛護及び管理に関する法律(動物愛護法)も改正されたが、愛護の観点、そして犬と人間の密接なつながりを前提として、本県の条例をどのように見直していくのか。

鈴木生活衛生課長 動物愛護法が改正され、9月5日に公布されたことを踏まえ、本県の不名誉な状態を脱却するために、本県の動物の愛護及び管理に関する条例を改正していくこととしたい。来年の第2回定例会には提案できるよう、検討を進めていきたい。

常井委員 われわれの勉強会の成果も執行部に提示していく。それも十分に取り入れてもらって、みんなで一緒に考えていく条例にしたいと思う。

東日本大震災復興・元気ないばらぎづくり調査特別委員会(H24.9.27)

●県の南北格差是正のため、県北地域への高規格道路など次なる構想を

常井委員 県北地域へはなかなか企業の立地が進まないようであるが、茨城県の過疎地は他県の過疎地とは状況が違う。夢のある高規格道路などを整備すれば、企業誘致が進み、一挙に過疎状態から脱却できるのではないかと。

小松原理事兼政策審議監 まずは、県北山間部、沿岸部をどうするか全体の絵を描いたうえで、道路などインフラをどうするか十分検討していきたい。

常井委員 道路を1本造ることによって、F I T構想(福島・茨城・栃木3県の連携)全体の活性化など、抜本的に県勢が変わっていく。企業の立地を促進し、人口減少に歯止めをかけ、県南と県北の格差を無くすため、高規格道路など、次なる構想をこの委員会で打ち上げるべきだ。

小松原理事兼政策審議監 夢を持って大きく絵を描くのも1つの方向だが、県としては、ある程度現実性を踏まえて、将来構想を策定していくべきであると考えている。

すこやか妊娠ほっとライン開設

予期せぬ妊娠や若年・未婚の妊娠、出産後の養育不安等、妊娠・出産に関して妊婦が気軽に相談できる体制を整備するため、妊娠等に関する専門相談窓口を、県が開設しました。健やかな妊娠・出産に向けてのサポートや虐待の

未然防止に向けた支援にもつなげます。

●専門相談窓口(委託先:茨城県看護協会)

- 1 専用電話回線 ☎029-221-1124(いいにんしん)
- 2 相談時間 月曜日から金曜日 10:00~18:00(土日祝日、年末年始12/29~1/3は除く)
- 3 相談体制 経験の豊富な保健師、助産師が対応

とこい洋治が見つけた地元の元気!



県立中央看護専門学校(中央病院隣り)の創立50周年記念式典が開催された。これまで看護師、助産師約7,300人の有為な人材を送り出してきた。橋本知事、永井学校長(中央病院院長兼務)、磯崎県議会議長、記念のブロンズ像「天使の椅子」を製作した能島先生夫妻、村田県看護協会長、山口笠間市長らと懇談。(24年10月)



▲自民党岩間支部政務調査部のハッ場ダム視察研修会にて。総事業費4,600億円のうち、茨城県は利根川の水利権確保や治水のために、約270億円を負担している。(24年10月)



▲池野辺の綿引儀左衛門さんの旭日単光章受章祝賀会が、出席者多数の中で和気あいあいとした雰囲気で開催された。ご夫婦共にとても元気。(24年10月)



▲市内各小中学校の運動会では、はつらつとした競技が繰り広げられた。(24年9月)



▲市内各地での敬老会には、元気な高齢者が集まった。市内の100歳以上の高齢者は40人を超えた。益々のご長寿をお祈りした。(24年9月)



▲第63回県央地区消防ポンプ操法大会には、市消防団2分団(準優勝)、18分団、21分団(3位)、44分団が出場。猛暑の中での練習の成果をみごと発揮した。(24年9月)



▲県合気道連盟主催の演武大会が岩間武道館で開催された。市内中学校の武道の授業に合気道も採り入れられている。(24年10月)



▲老人ホーム「すずらんの里」の秋祭りでは、おしのべ保育園の園児の皆さんが勇壮な和太鼓を披露して喜ばれた。(24年10月)



▲友部リトルの塩田会長さんが、より高いレベルを目指して、リトルメジャー大会を創設した。第1回大会で額賀電輔主将が選手宣誓。(24年10月)



▲全国高等学校アームスリング選手権大会で宣誓する笠間高校の島野翔太、井上若菜選手。全国から56校、150名が参加した。(24年10月)



▲来栖公民館では、菊の会の会員が育てた自慢の菊花と手料理を持ち寄って、第10回菊まつりが盛大に開催された。(24年11月)